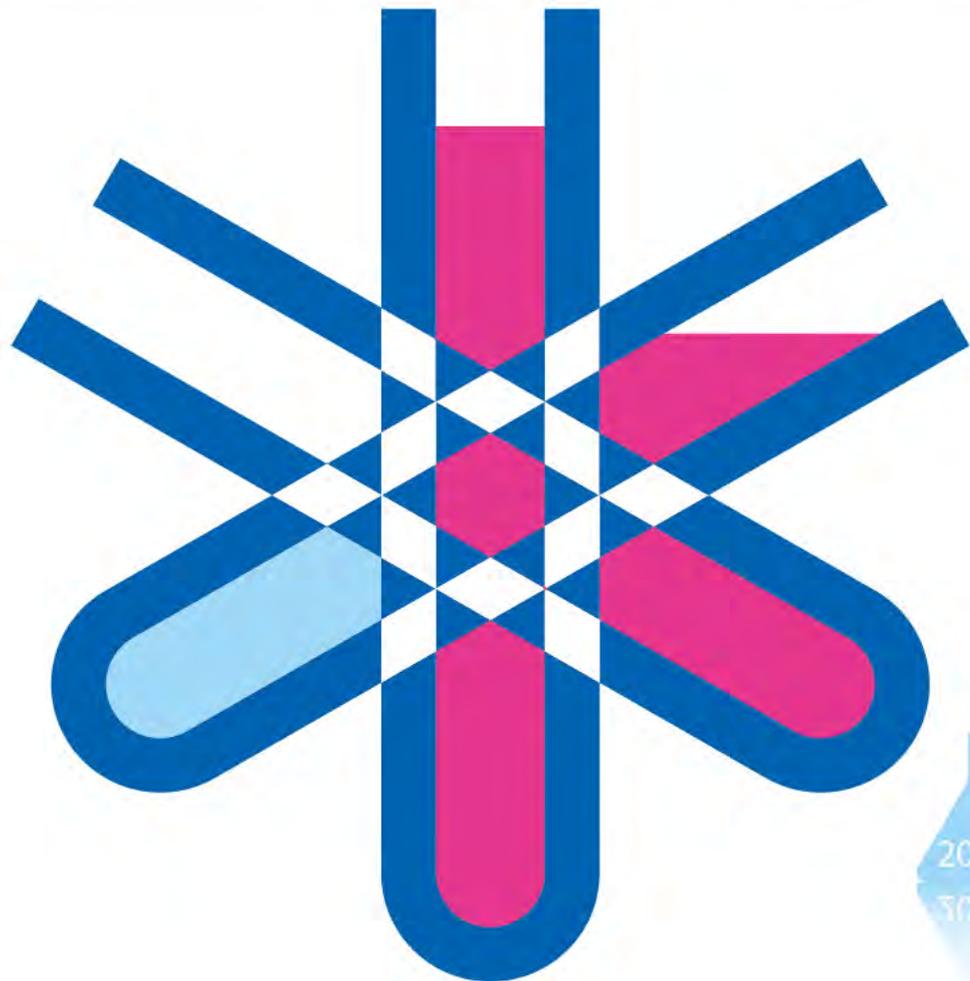


横查情報月報



横浜市衛生研究所

平成27年2月号 目次

【トピックス】

年末食品一斉収去検査	1
残留農薬検査(平成26年度 その3)	3
魚介類中のPCB検査	6

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 1月	7
-------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	11
---------------------	----

年末食品一斉収去検査

年末食品等一斉点検は厚生労働省医薬食品局食品安全部長から出された「平成26年度食品、添加物等の年末一斉取締りの実施について」に基づき、食品流通量が増加する年末における食中毒の発生防止を図るとともに、積極的に食品の衛生確保を図るため、全国一斉に実施されました。

本市においては平成26年11月1日から12月31日までを年末取締り期間と定め、一斉点検を行いました。そのうち、食品専門監視班と福祉保健センターによる収去及び買取により搬入された検体について、当所が行った細菌検査と添加物検査について報告します。

1 細菌検査

細菌検査の内訳は、食肉製品・魚肉ねり製品・そうざいなど90検体221項目(表1)でした。

検査の結果、規格基準^{*1}違反はなく、衛生規範^{*2}不適が3検体ありました。

検査結果については、収去を実施した保健所に報告しました。

^{*1} 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたもののことです。

^{*2} 衛生規範とは、弁当、そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類について定められた衛生的な取り扱い等の指針のことです。

表1 収去検査結果

平成26年11～12月

食品区分	検査 検体数	検査 項目数	違反・不適 検体数	違反・不適理由
冷凍食品				
凍結直前に加熱された加熱後摂取冷凍食品	1	2		
凍結直前未加熱の加熱後摂取冷凍食品	2	4		
無加熱摂取冷凍食品	1	2		
魚介類加工品				
魚肉ねり製品	7	7		
食肉製品				
加熱後包装食肉製品(ハム・ベーコン等)	3	9		
非加熱食肉製品(生ハム等)	2	8		
特定加熱食肉製品(ローストビーフ)	1	4		
菓子類				
洋生菓子	36	106	2	細菌数超過 ^{*3} 大腸菌群陽性
飲料				
清涼飲料水	5	5		
その他の食品				
加熱そうざい(そうざい類、弁当類)	19	57		
非加熱そうざい(そうざい類、弁当類)	13	17	1	細菌数超過 ^{*4}
合計	90	221	3	

^{*3} 細菌数 850万/g (基準 10万/g以下)

^{*4} 細菌数 120万/g (基準 100万/g以下)

【 検査研究課 細菌担当 】

2 食品添加物検査

今回は野菜類・果実加工品、菓子類、かん詰・びん詰食品などを重点に144検体、延べ2,075項目の検査を行いました。

その結果、違反疑いとなった2検体については、食品衛生課から輸入者を管轄する自治体に通報し、現在も調査中です。内訳は、表示にない安息香酸を0.02g/kg検出した輸入食品のその他の食品1検体及び表示にないアセスルファムカリウムを0.05g/kg検出した輸入食品の清涼飲料水1検体です。その他の検体はいずれも食品衛生法に適合していました。

表2 食品添加物検査結果

平成26年11～12月

大分類	検 体 数	違 反 検 体 数	項 目 数	検 査 項 目						
				保 存 料	着 色 料	甘 味 料	酸 化 防 止 剤	漂 白 剤	発 色 剤	そ の 他
魚介類加工品	8		60	21	36	2				1
肉卵類及びその加工品	7		112	21	84					7
穀類及びその加工品	2		33	3	24		6			
野菜類・果実及びその加工品	30		381	75	250	38	12	6		
菓子類	27		403	66	240	40	54	3		
清涼飲料水	14	1*	272	126	120	24	2			
酒精飲料	13		186	39	132	2	13			
乳製品										
かん詰・びん詰食品	27		381	66	243	37	32	2	1	
その他の食品	16	1*	247	48	173	17	7	2		
合 計	144	2*	2,075	465	1,302	160	126	13	9	0

※:いずれも輸入食品であり、輸入者を管轄する自治体において調査中のため、違反は確定していません。

【 検査研究課 食品添加物担当 】

残留農薬検査(平成26年度 その3)

当所では、横浜市内に流通する農産物等の食品に残留する農薬の検査を行っています。平成25年度に検査項目の見直しを行い、農産物ごとに検査項目を設定しました。

今回は、平成26年8月から12月までに各区福祉保健センター及び南部市場食品衛生検査所より搬入された農産物等の検査結果を報告します。

1 市内産農産物

11月に搬入されたキャベツ、だいこんの根(各2検体)、ごぼう、さつまいも、さといも、だいこんの葉及びほうれんそう(各1検体)の計9検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、だいこんの根1検体からクロルフェナピルが0.01ppm、だいこんの葉からアセタミプリドが0.03ppm、クロルフェナピルが0.37ppm検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

2 国内産農産物

11月に搬入されたはくさい(2検体)、じゃがいも、だいこんの根、トマト及びほうれんそう(各1検体)、12月に搬入されたキャベツ、さつまいも、だいこんの根、はくさい及びブロッコリー(各1検体)の計11検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、はくさい1検体からボスカリドが0.03ppm、ほうれんそうからイミダクロプリドが0.02ppm、フルフェノクスロンが0.08ppm検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

3 輸入農産物

12月に搬入されたアスパラガス、かぼちゃ、さといも、パプリカ及びブロッコリー(各1検体)の計5検体について検査を行いました。これらの結果を表1に示しました。

その結果、イミダクロプリドがかぼちゃから0.01ppm、パプリカから0.02ppm検出されました。しかし、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示しました。

今回の検査で検出された農薬の概要については、5ページの【農薬解説】を参考にしてください。

表1 残留農薬検査結果

(H26年8月～H26年12月)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
市内産農産物						
ごぼう	横浜市	1	0			
キャベツ	横浜市	2	0			
さつまいも	横浜市	1	0			
さといも	横浜市	1	0			
だいこんの根	横浜市	2	1	クロルフェナピル	0.01	0.1
だいこんの葉	横浜市	1	1	{アセタミプリド	0.03	5
				{クロルフェナピル	0.37	3
ほうれんそう	横浜市	1	0			
国内産農産物						
キャベツ	神奈川県	1	0			
さつまいも	茨城県	1	0			
じゃがいも	北海道	1	0			
だいこんの根	神奈川県	2	0			
トマト	千葉県	1	0			
はくさい	茨城県	2	0			
	群馬県	1	1	ボスカリド	0.03	40
ブロッコリー	愛知県	1	0			
ほうれんそう	群馬県	1	1	{イミダクロプリド	0.02	15
				{フルフェノクスロン	0.08	10

表1 残留農薬検査結果(続き)

農産物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
輸入農産物						
アスパラガス	オーストラリア	1	0			
かぼちゃ	メキシコ	1	1	イミダクロプリド	0.01	1
さといも	中国	1	0			
パプリカ	ニュージーランド	1	1	イミダクロプリド	0.02	3
ブロッコリー	アメリカ	1	0			

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出限界 (ppm)	A*1 B*1 C*1			農薬名	検出限界 (ppm)	A B C		
		A*1	B*1	C*1			A	B	C
BHC(α,β,γ及びδの和)	0.005	○*2	-*2	-	ジオキサベンゾホス	0.01	○	○	○
DDT(DDE,DDD,DDTの和*3)	0.005	○	○	○	ジクロフェンチオン	0.01	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	ジコホール	0.01	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	シハロトリン	0.01	○	○	○
アザメチホス	0.01	○	○	○	ジフェノコナゾール	0.01	○	○	-
アセタミプリド	0.01	○	○	○	シフルトリン	0.01	-	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	シフルフェナミド	0.01	○	○	-
アニロホス	0.01	○	○	○	シペルメトリン	0.01	-	○	○
イプロバリカルブ	0.01	○	○	○	ジメチリモール	0.01	-	-	○
イプロベンホス	0.01	○	○	○	ジメトモルフ	0.01	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	スルプロホス	0.01	○	○	○
インダノファン	0.01	○	○	○	ダイアジノン	0.01	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	ダイムロン	0.01	○	○	○
エチオン	0.01	○	○	○	チアクロプリド	0.01	○	○	○
エトプロホス	0.005	○	○	○	チアメキサム	0.01	○	-	○
エトリムホス	0.01	○	○	○	テトラクロルピホス	0.01	○	○	○
エポキシコナゾール	0.01	-	-	○	テトラジホン	0.01	○	○	○
エンドスルファン(α及びβの和)	0.005	-	○	-	テブチウロン	0.01	○	○	○
エンドリン	0.005	-	○	-	テブフェノジド	0.01	○	○	○
オキサミル	0.01	○	○	○	テフルトリン	0.01	-	○	○
オキシカルボキシ	0.01	○	○	○	トラルコキシジム	0.01	○	○	○
オリザリン	0.01	-	○	○	トリコナゾール	0.01	○	○	○
カズサホス	0.01	○	○	○	トリフルムロン	0.01	○	○	○
カフェンストロール	0.01	○	○	○	トルクロホスメチル	0.01	○	○	○
カルバリル	0.01	○	○	○	ノバルロン	0.01	-	○	○
カルプロパミド	0.01	○	○	○	パラチオン	0.01	○	○	○
クミルロン	0.01	○	○	○	パラチオンメチル	0.01	○	○	○
クロキントセト-メキシル	0.01	○	○	○	ピフェントリン	0.01	○	○	○
クロチアニジン	0.01	○	○	○	ピラクロストロビン	0.01	○	-	-
クロマフェノジド	0.01	○	○	○	ピラゾリネート	0.01	-	-	○
クロリダゾン	0.01	○	○	○	ピリフタリド	0.01	○	○	○
クロルピリホス	0.01	○	○	○	ピリミカーブ	0.01	○	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	ピリミホスメチル	0.01	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	ファモキサドン	0.01	○	○	○
クロルフェンゾン	0.01	○	○	○	フェントロチオン	0.01	○	○	○
クロルフェンピホス	0.01	○	○	○	フェノキシカルブ	0.01	○	○	○
クロロクスロン	0.01	○	○	○	フェノブカルブ	0.01	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	フェリムゾン	0.01	○	-	-
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	フェンアミドン	0.01	○	○	○
シアノホス	0.01	○	○	○	フェンクロルホス	0.01	○	○	○
ジウロン	0.01	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○

表2 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

農薬名	検出限界 (ppm)	A B C			農薬名	検出限界 (ppm)	A B C		
		A	B	C			A	B	C
フェントエート	0.01	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	-	-
フェントラザミド	0.01	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	-
フェンバレレート	0.01	-	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○
フェンピロキシメート	0.01	-	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○
フェンプロパトリン	0.01	-	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○
ブタフェナシル	0.01	○	○	○	ペントキサゾン	0.01	○	-	-
ブタミホス	0.01	○	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	-
フラメピル	0.01	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○
フルシトリネート	0.01	-	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○
フルバリネート	0.01	-	○	○	メタベンズチアズロン	0.01	○	○	○
フルフェナセット	0.01	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○
フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	メピンホス	0.01	○	○	○
フルリドン	0.01	○	○	○	モノニユロン	0.01	○	○	○
プロシミドン	0.01	○	○	○	ラクトフェン	0.01	○	○	-
プロチオホス	0.01	○	○	○	リニユロン	0.01	○	○	○
プロピザミド	0.01	-	○	○	リンデン(γ -BHC)	0.002	○	○	○
ヘキサフルムロン	0.01	○	-	-	ルフエヌロン	0.01	-	○	○

- *1 A:かぼちゃ、だいこんの葉、トマト、パプリカ、ブロッコリー、ほうれんそう
 B:アスパラガス、キャベツ、だいこんの根、はくさい
 C:ごぼう、さつまいも、さといも、じゃがいも
- *2 ○:実施、-:実施せず
- *3 DDTは p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT及び p,p' -DDTの和

【農薬解説】

○アセタミプリド

『モスピラン』などの商品名で販売されている殺虫剤で、広範囲の害虫に対して効果があります。

○イミダクロプリド

『アドマイヤー』などの商品名で販売されている殺虫剤です。特にハモグリガ類に効果があり、従来の殺虫剤に抵抗性のある害虫に対しても効果があります。

平成26年度に実施した検査において、こまつな(市内産)やほうれんそう(国内産)からも検出されました。

○クロルフェナピル

『コテツ』などの商品名で販売されている殺虫剤です。多くの野菜に適用があり、従来の殺虫剤に耐性がある害虫に対しても効果があります。

平成26年度に実施した検査において、なす(市内産)やトマト(国内産)からも検出されました。

○フルフェノクスロン

『カスケード』などの商品名で販売されている殺虫剤で、広範囲の害虫に対して効果があります。

平成26年度に実施した検査において、トマトやほうれんそう、レタス(国内産)からも検出されました。

○ボスカリド

『カンタス』などの商品名で販売されている殺菌剤で、菌核病菌や灰色カビ病菌などの感染を防ぐ効果があります。

※参考文献

- ・社団法人日本植物防疫協会、農薬ハンドブック2011年版

魚介類中のPCB検査



平成26年11月に中央卸売市場で収去した市内に流通する魚介類9種10検体について、PCBの検査を行いました。検査の結果、表に示すとおりすべて不検出でした。

表 PCBの検査結果

単位：ppm

食品の種類	検体数	検出件数	結果	暫定的規制値	
遠洋沖合魚介類 (可食部)	カツオ	1	0	不検出	0.5
	サンマ	1	0	不検出	
	トビウオ	1	0	不検出	
	ホッケ	1	0	不検出	
	マイワシ	1	0	不検出	
内海内湾魚介類 (可食部)	イサキ	1	0	不検出	3
	ヒラマサ	1	0	不検出	
	マアジ	2	0	不検出	
	メダイ	1	0	不検出	
計	10	0	—	—	

(検出限界：0.01ppm)

《PCB廃棄物処理に至る経緯と現状について》

PCBは化学的安定性、絶縁性、不燃性などの特性を有することから、絶縁油、熱媒体等としてトランスやコンデンサなどに使用されてきましたが、昭和43年に起きたカネミ油症事件を契機に、PCBの製造・輸入等が禁止されました。しかし、その後約30年間、処理体制の整備が停滞したため、長期保管が継続する中で紛失・流出等が発生し、環境汚染の進行が懸念されるようになりました。

国際的に汚染を防止するため、平成13年にPCBなどの残留性有機汚染物質について排出の廃絶・低減や、これらの廃棄物の適正処理等を目的にストックホルム条約が採択されました。この条約ではPCBを平成37年までに使用の廃絶、平成40年までに適正に処分されることが定められています。

日本では平成13年にPCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法が制定されました。この法律では、PCB廃棄物処理計画の策定や、期限内の処分などについての規定があります。なお、当初の処理期限は平成28年7月でしたが、処理の進捗状況や新たな廃棄物が判明したため、平成39年3月31日までに延長されました。

これらの体制により、現在は全国に5箇所ある広域廃棄物処理施設で処理事業を行っています。これまでにトランス等で約6割、コンデンサ等で約5割の処理が終了しています。今後も処理体制や設備を整えながら、安全性を確保しつつ、計画的に処理が実施されていきます。



【 検査研究課 微量汚染物担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 1月

《今月のトピックス》

- インフルエンザ警報(警報発令基準値:定点あたり30.00)が昨シーズンより4週早く発令されました。流行が継続しています。
- 伝染性紅斑の報告が多い状態が続いています。

全数把握疾患 1月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	7件
A型肝炎	1件	侵襲性髄膜炎菌感染症	1件
デング熱	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	14件
レジオネラ症	9件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	3件
急性脳炎	4件	風しん	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5件		

- ＜腸管出血性大腸菌感染症＞1件(O157VT2)の報告がありました。感染原因や経路は不明です。
- ＜A型肝炎＞1件の報告がありました。国内での感染が推定されていますが感染経路等不明です。
- ＜デング熱＞海外感染例が3件(タイおよびインドネシアでの感染)報告されました。全国で、11月以降国内感染例は報告されていません。
- ＜レジオネラ症＞肺炎型7件、ポンティアック型2件の報告がありました。これらの報告での関連性は現在までに確認されていません。各症例について引き続き感染経路等調査中です。
- ＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症4件の報告があり、すべて国内での感染で、明確な感染経路は不明でした。
- ＜急性脳炎＞4件の報告がありました。そのうち3件(乳児(予防接種歴無し)、幼児(予防接種歴無し)および学童(予防接種歴不明))は迅速検査でインフルエンザA型陽性でした。残るもう1件は幼児で病原体検索中です。
- ＜劇症型溶血性レンサ球菌感染症＞5件の報告があり、4件は60歳代～70歳代で血清型はA群(感染経路不明)、もう1件は70歳代で血清型はG群(創傷からの感染)でした。
- ＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞無症状病原体保有者3件、AIDS 3件、その他1件の報告がありました。すべて国内での感染で、うち6件は同性間性的接触、残る1件は性的接触による感染でした。
- ＜侵襲性髄膜炎菌感染症＞50歳代の報告が1件ありました。患者は集団での生活はしておらず、周囲に他の患者は確認されませんでした。
- ＜侵襲性肺炎球菌感染症＞14件の報告がありました。12件は60歳代以上で、そのうち3件(1件は2年前に接種。他は接種時期不明)で接種歴が確認できましたが、他は未接種か接種歴不明でした。2件は乳幼児(9か月、1歳)で、それぞれワクチン接種歴が3、4回有りました。
- ＜水痘(入院例に限る)＞90歳代の届出が1件ありました。予防接種歴は不明でした。
- ＜梅毒＞早期顕症梅毒 I 期2件、無症候期1件の報告がありました。すべて国内での感染で、2件は異性間性的接触、もう1件は同性間性的接触による感染でした。
- ＜風しん＞40歳代男性の報告が1件ありました。ワクチン接種歴はありませんでした。

定点把握疾患 平成26年12月22日から平成27年1月25日まで 平成26-27年 週一月日対応表

で(平成26年第52週から平成27年第4週まで。ただし、性感染症については平成26年12月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

第52週	12月22日～12月28日
第1週	12月29日～1月4日
第2週	1月5日～1月11日
第3週	1月12日～1月18日
第4週	1月19日～1月25日

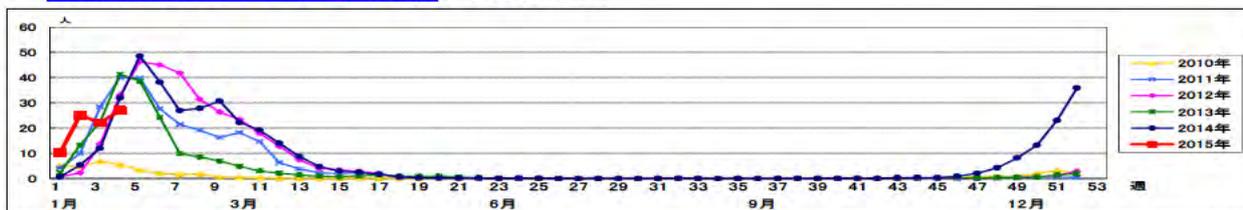
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、第1週より小児科定点:94か所、内科定点:59か所、眼科定点:22か所、性感染症定点:29か所、基幹(病院)定点:4か所の計208か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計153

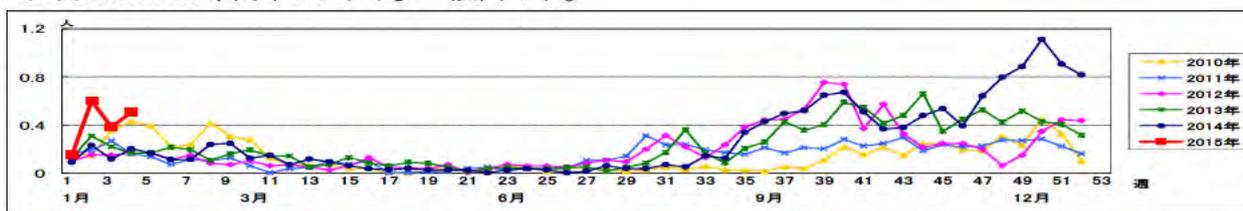
定点から報告されます。

＜インフルエンザ＞2014年第52週の定点あたりの患者報告数は、横浜市全体で35.83と、警報発令基準値30.00を上回りました。昨シーズンより4週早い警報発令です。年末年始を挟み、その後報告数は下がりましたが、第4週26.89と再び増加しました。増加の主体は20歳未満の患者で、学級閉鎖も再増加しています。第4週の迅速キットの結果はA型が98.3%で、今シーズンはほとんどB型の増加がみられていません。流行の主体はいままで同様AH3亜型(A香港型)です。市内で検出された株では主な薬剤への耐性は確認されていません。予防にはワクチン接種だけでなく、手洗いや早期受診などの対策が重要です。

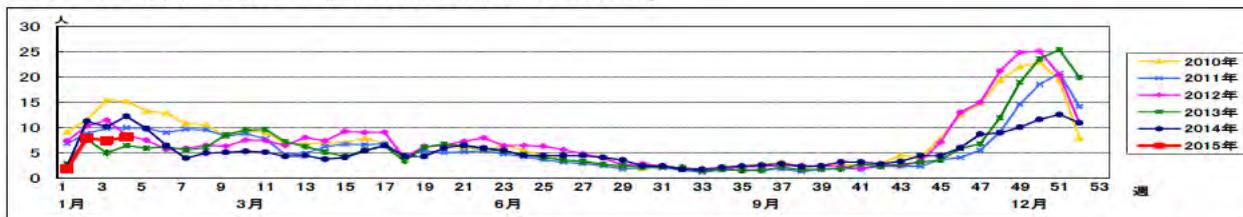
◆横浜市インフルエンザ臨時情報(衛生研究所)



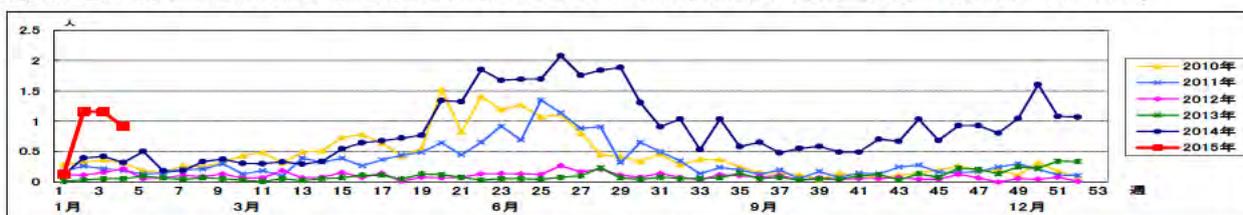
＜RSウイルス感染症＞第4週は市全体で定点あたり0.51と、今シーズンのピークである第50週1.11からは少なくなりましたが、例年よりやや多い傾向です。



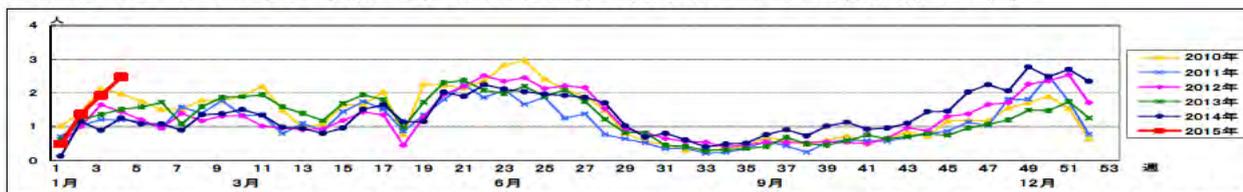
＜感染性胃腸炎＞今シーズンは例年の同時期に比べて報告数は少なく、第4週8.13で、区別にみても警報レベル(警報発令基準値20.00)の区はありません。



＜伝染性紅斑＞昨年8月後半に減少して以降下げ止まり、例年より多い水準で推移しています。



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞第4週は市全体で定点あたり2.47と増加傾向です。



＜性感染症＞12月は、性器クラミジア感染症は男性が27件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が3件です。尖圭コンジローマは男性10件、女性が2件でした。淋菌感染症は男性が9件、女性が0件でした。

＜基幹定点週報＞マイコプラズマ肺炎は第52週0.67、第1週0.33、第2週1.00、第3週1.00、第4週0.50となっています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は、第52週0.00、第1週0.00、第2週0.00、第3週0.50、第4週0.25でした。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

＜基幹定点月報＞12月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症2件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

1月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点45件、内科定点23件、基幹定点1件、眼科定点3件で、定点外医療機関からは5件でした。

2月6日現在、表に示した各種ウイルスの分離株55例と遺伝子21例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(1月)

臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	R S 感 染 症	感 染 性 胃 腸 炎	ア デ ノ ウ イ ル ス 感 染 症	イン フル エン ザ 脳 症
アデノ NT		1	2			1	
インフルエンザ AH3型			49		3		2
パラインフルエンザ 2型			1				
パラインフルエンザ 3型		1	3				
パラインフルエンザ 4型		1					
RS		2		1			
ヒト メタニューモ		1					
ヒト コロナ	1						
ライノ		2	1				
ノロ					3		
サポ					1		
合計	1	8	49	1	4	1	2

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数、NT:未同定

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

1月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から5件、その他が1件で、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT2)が検出されました。小児科定点からはありませんでした。

その他の感染症は小児科から6件、基幹定点から7件、その他が35件でした。A群溶血性レンサ球菌のうち6株(T1の3株とT28の3株)およびG群溶血性レンサ球菌2株の合計8株は劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者から検出されました。*Legionella pneumophila*の血清型は1群、*Neisseria meningitidis*はY群でした。バンコマイシン耐性腸球菌はvanC2, 3遺伝子保有でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(1月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別	1月			2015年1月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数	0	5	1	0	5	1
菌種名						
腸管出血性大腸菌			1			1
不検出	0	5	0	0	5	0

その他の感染症

検査年月 定点の区別	1月			2015年1月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件数	6	7	35	6	7	35
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌						
T1	1		3	1		3
T4	2			2		
T28	1		3	1		3
型別不能	2			2		
G群溶血性レンサ球菌			2			2
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		4			4	
バンコマイシン耐性腸球菌		1			1	
<i>Legionella pneumophila</i>			1			1
肺炎球菌		1	16		1	16
<i>Neisseria meningitidis</i>			1			1
百日咳			1			1
その他		1			1	
不検出	0	0	8	0	0	8

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリブシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成27年1月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成27年1月)

平成27年1月の総アクセス数は、208,824件でした。主な内訳は、感染症情報センター79.2%、食品衛生5.0%、保健情報4.0%、検査情報月報1.1%、生活環境衛生1.5%、薬事0.4%でした。

(2) アクセス順位 (平成27年1月)

1月のアクセス順位(表1)

表1 平成27年1月 アクセス順位

は、第1位が「横浜市インフルエンザ流行情報7号」、第2位が「横浜市インフルエンザ流行情報8号」、第3位が「インフルエンザについて」でした。

順位	タイトル	件数
1	横浜市インフルエンザ流行情報7号	19,058
2	横浜市インフルエンザ流行情報8号	14,429
3	インフルエンザについて	8,783
4	横浜市インフルエンザ流行情報9号	8,041
5	衛生研究所トップページ	5,670
6	横浜市感染症情報センター	5,175
7	横浜市インフルエンザ流行情報6号	4,949
8	案内リーフレット	4,051
9	横浜市感染症臨時情報 感染性胃腸炎 5報	3,437
10	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,406

データ提供: 市民局広報課

1月の総アクセス数は、前月に比べ8%ほど増加しました。今月の1位から4位までは、インフルエンザに関連するタイトルが独占しました。今年も、例年に比べて、インフルエンザの発生が早

く、横浜市内でも昨シーズンより4週早い警報発令となりました。増加の主体は20歳未満の患者で、学級閉鎖も増加しています。インフルエンザの予防としては、ワクチンが有効ですが、日常の手洗いやうがい、マスクの着用などがとても大切です。

「横浜市インフルエンザ流行情報7号」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/2014/rinji07.pdf>

「横浜市インフルエンザ流行情報8号」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/2014/rinji08.pdf>

「インフルエンザについて」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/influenza-rinji-index2014.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成27年1月）

平成27年1月の問い合わせは、4件でした(表2)。

表2 平成27年1月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
犬に噛まれてのご相談	1	感染症・疫学情報課
宿泊宿のトイレの調査について	1	感染症・疫学情報課
メールでのURLの配信について	1	感染症・疫学情報課(検査研究課確認済)
横浜市感染症情報センターの臨時情報へのリンクについて	1	感染症・疫学情報課

2 追加・更新記事（平成27年1月）

平成27年1月に追加・更新した主な記事は、17件でした(表3)。

表3 平成27年1月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
1月 7日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
1月 7日	横浜市インフルエンザ流行情報7号	掲載
1月 9日	エンテロウイルスについて	更新
1月14日	デンマークのこどもの定期予防接種について	更新
1月15日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
1月15日	横浜市インフルエンザ流行情報8号	掲載
1月15日	スウェーデンのこどもの定期予防接種について	更新
1月21日	ノルウェーのこどもの定期予防接種について	更新
1月22日	感染性胃腸炎の発生状況	掲載
1月22日	横浜市インフルエンザ流行情報9号	掲載
1月22日	フィンランドのこどもの定期予防接種について	更新
1月22日	ハンガリーのこどもの定期予防接種について	更新
1月26日	衛生研究所管理課嘱託員 募集案内	掲載
1月26日	花粉症に注意しましょう！	掲載
1月28日	アイルランドのこどもの定期予防接種について	更新
1月29日	横浜市インフルエンザ流行情報10号	掲載
1月30日	オーストリアのこどもの定期予防接種について	更新

【 感染症・疫学情報課 】